

外部有識者(産業構造審議会評価WG)の所見【技術評価】

- ①分離膜の開発については開始時に検証可能な基準を設けステージート方式等で絞り込みを行うことを検討すること。
- ②CCSの導入戦略について検討を継続すること。
- ③国際協力の観点および国際標準の枠組みを含む本事業の海外戦略の検討を行うこと。
- ④プロジェクト内を非独占実施とすることは参加企業のインセンティブを損なう恐れがあるため、知的財産管理戦略について再検討すること。

外部有識者(産業構造審議会評価WG)の所見を踏まえた改善点等

- ①ご指摘を踏まえ、中間評価時に係る指標を見直しました。評価時点において当該指標を達成できない場合には、研究計画等を見直すことといたします。
- ②今後、CCS実証事業の結果などを踏まえ、導入戦略の検討を継続してまいります。
- ③ご指摘を踏まえ、当該プロジェクトの実施に当たり、海外戦略についても検討して参ります。特に、国際標準化については、既にISOに専門委員会(TC265)が設置されており、本事業における成果も含めた我が国の技術が国際標準化に適切に反映されるよう取り組んでまいります。
- ④ご指摘を踏まえ、知的財産権の管理・運用を適切に実施してまいります。

二酸化炭素回収技術実用化研究事業費

平成27年度概算要求額 5.6億円（新規）

産業技術環境局 環境調和産業・技術室
03-3501-9271

事業の内容

事業の概要・目的

○二酸化炭素回収・貯留（CCS）は CO_2 の削減技術として有効ですが、実用化にはコスト削減が課題です。本事業ではCCSの全コストの6割以上を占める CO_2 の分離・回収のコスト低減を目的に、以下の事業を実施します。

1) 先進的二酸化炭素固体吸収材実用化研究開発事業

CO_2 の分離・回収技術の一つである化学吸収法のうち、高効率な回収が可能なアミンを固体に担持した固体吸収材について、実用規模のプラント試験設備を用いた実用化研究を行います。

2) 二酸化炭素分離膜モジュール実用化研究開発事業

石炭ガス化発電等で発生する比較的高い圧力を有するガスから CO_2 を分離・回収するのに有効な分離膜技術について、実ガスを用いた実用化研究を行います。

条件（対象者、対象行為、補助率等）

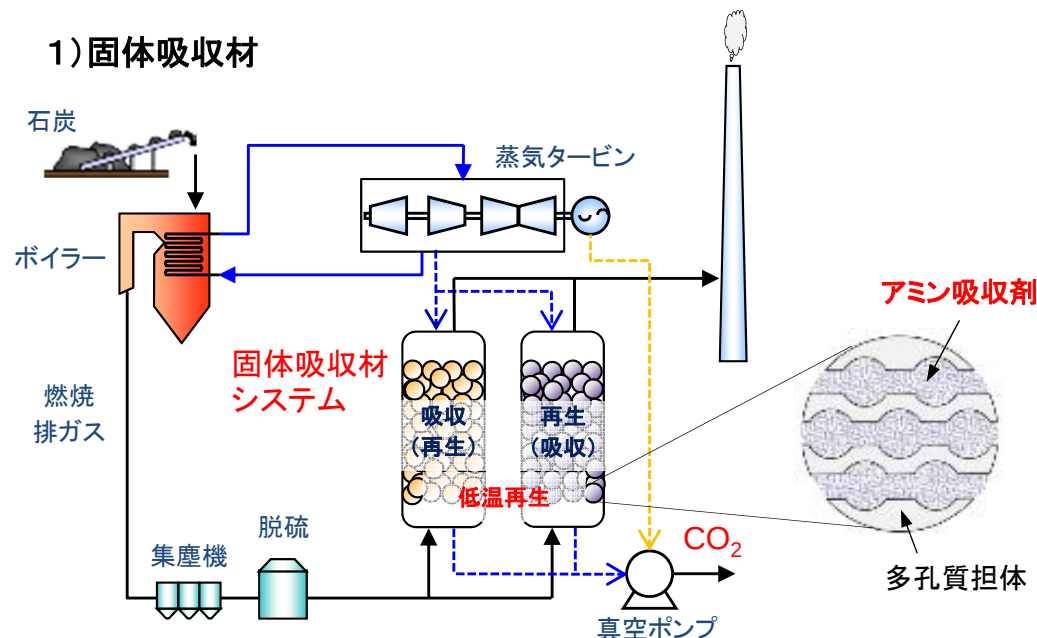
国

委託

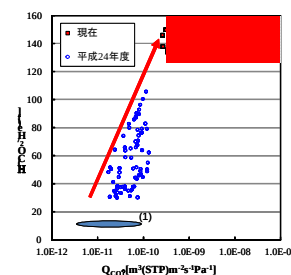
民間企業等

事業イメージ

<実ガス試験>

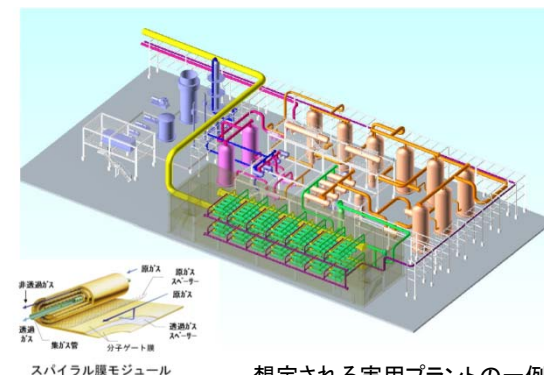


2) 分子ゲート膜



世界トップの分離性能

(1): H. Lin, B. Freeman et al., Science, 311, 639-642 (2006)



想定される実用プラントの一例
(緑の部分が膜装置)